

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、持ち直している」

項目	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	→

（注）5年4月判断は、前回1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、人流の回復やインバウンドの増加により、持ち直している。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、持ち直しつつある。

【各項目の判断】

項目	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較
個人消費	持ち直している	持ち直している	→
生産活動	持ち直している	一進一退の状況にある	↔
雇用情勢	持ち直しつつある	持ち直しつつある	→
設備投資	4年度は前年度を上回る見込みとなっている	4年度は前年度を上回る見込みとなっている	→
企業収益	4年度は増益見込みとなっている	4年度は増益見込みとなっている	→
住宅建設	前年並みとなっている	前年を上回っている	↗
輸出	前年を上回っている	前年を上回っている	→

【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外経済の下振れが景気の下押しリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ 個人消費 「持ち直している」

百貨店販売は、国内客の回復に加え、インバウンドの増加により免税売上が増加するなど、回復の動きがみられる。スーパー販売は、物価高による買い控え等がみられるものの、値上げの影響もあり売上は前年を上回っている。コンビニエンスストア販売及びドラッグストア販売は、都市部や観光地の店舗を中心に、国内観光客やビジネス客のほか、インバウンドの増加もあり、売上が増加している。ホームセンター販売は、物価高による客足の減少がみられ、弱い動きとなっている。家電販売は、新生活需要はみられるものの、横ばいの状況にある。乗用車の新車登録届出台数は、供給面での制約の影響が和らぎ、前年を上回っている。旅行取扱の状況は、海外旅行は引き続き厳しい状況にあるものの、各種支援策の後押しもあり国内旅行は持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 外出機会の増加を背景に、婦人服やオケージョン衣料が好調であったほか、インバウンドによる免税売上も増加しており売上は好調となっている。(百貨店・大企業)
- 冷凍食品などは引き続き好調であるものの、卒入学など出費が多い時期でもあり、節約志向が高まっている印象がある。(スーパー・大企業)
- 繁華街や観光地を中心に人出の増加が顕著であり、それに伴い客数も大きく増加しており売上は好調となっている。(コンビニエンスストア・大企業)
- 人出が回復し、インバウンドも増加傾向にあるため売上は改善している。またマスク着用が個人の判断になった影響から化粧品売れ行きも好調となっている。(ドラッグストア・中小企業)
- 新生活需要から一人暮らし向けの家電がよく売れた。そのほか、物価上昇により消費マインドが低下しているのか、比較的安価な商品を求める客が多かった。(家電量販店・大企業)
- 半導体不足等の影響が緩和傾向にあることに加え、今期は国内出荷分の割合が高かったこともあり、売上台数は例年並みの水準に戻っている。(自動車販売店・中小企業)
- 国内旅行は、旅行需要が高く回復傾向が継続しているが、海外旅行は、航空券の価格が高騰していることもあり需要が戻っていない。(旅行代理店・中堅企業)
- マスク着用の緩和などから外食への気運が高まっており、今期は売上がコロナ前の水準に最も近づいた。宴会需要も徐々にではあるが戻ってきている。(飲食サービス・中堅企業)

■ 生産活動 「一進一退の状況にある」

鉱工業指数(生産)で見ると、車載用電池等が好調に推移していることから、電気・情報通信機械などが上昇しているものの、スマートフォンやパソコンの需要が低迷していることなどから、電子部品・デバイスなどが低下しており、生産活動は一進一退の状況にある。

- 車載向けリチウムイオン電池については、旺盛な需要が継続している。(電気機械・大企業)
- スマートフォンについては、海外等の景気低迷を受けた需要減速により販売台数が大きく減少しており、関連する電子部品についても受注が想定以上に減少している。(電子部品・デバイス・大企業)
- 中国の景気後退や円安の緩和の影響から、5G基地局向けの光硬化樹脂などの受注・販売が落ち込んだ。(化学・大企業)

■ 雇用情勢 「持ち直しつつある」

有効求人倍率は横ばいで推移しているものの、新規求人数は増加傾向にあり、完全失業率もおおむね前年を下回って推移していることから、雇用情勢は持ち直しつつある。

- コンビニ業界は時給が低いことから、他の業態に人が流れやすく人材の確保が難しい。当社も人員は不足しており、人材確保のために時給を上げている。(コンビニエンスストア・大企業)
- 正規職員、非正規職員ともに人手不足。離職も相次いでいる。特にレストランの給仕やハウスキーパーが足りておらず、募集しても集まらない状況。(宿泊・大企業)
- ドライバー不足が続いている。令和5年4月の大卒採用については、予定した人数を確保することが出来なかった。内定しても4割程度が辞退してしまう。(運輸・大企業)
- 新卒採用者については、特にデジタル人材など技術系人材の争奪戦が激しくなっている印象がある。人材を確保するべく、初任給を引き上げた。(生産用機械・大企業)

- **設備投資「4年度は前年度を上回る見込みとなっている」**（全産業）「法人企業景気予測調査」令和5年1～3月期
 - 製造業では、業務用機械などが前年度を下回っているものの、生産用機械、はん用機械などが前年度を上回っていることから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。
 - 非製造業では、不動産などが前年度を下回っているものの、建設、卸売などが前年度を上回っていることから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。

- 研究開発拠点の拡充、台風対策及び耐震補強などのBCP対策を計画。（生産用機械・大企業）
- 物流施設への投資額が増加。（建設・大企業）

- **企業収益「4年度は増益見込みとなっている」**（全産業）「法人企業景気予測調査」令和5年1～3月期
 - 製造業では、情報通信機械などが減益となるものの、化学、電気機械などが増益となることから、全体では増益見込みとなっている。
 - 非製造業では、建設などが減益となるものの、運輸・郵便、卸売などが増益となることから、全体では増益見込みとなっている。

- **住宅建設「前年を上回っている」**
 - 新設住宅着工戸数で見ると、貸家などが増加していることから、前年を上回っている。

- **輸出「前年を上回っている」**
 - 管内通関実績（円ベース）で見ると、輸出は、アメリカ向けの医薬品や鉄鋼などが増加していることから、前年を上回っている。なお、輸入は、前年を上回っている。

【その他の項目】

- **企業の景況感** 法人企業景気予測調査（令和5年1～3月期調査）の景況判断BSIで見ると、全産業では「下降」超となっている。先行きについて、5年4～6月期は、全産業では「下降」超の見通しとなっている。
- **公共事業** 前払金保証請負金額で見ると、独立行政法人等や市町村などで増加していることから、前年を上回っている。
- **金融** 貸出金残高は、前年を上回っている。
- **消費者物価** 大阪市の消費者物価指数（生鮮食品を除く総合）で見ると、食料などが上昇していることから、前年を上回っている。
- **企業倒産** 倒産件数は、前年を上回っている。

3. 各府県の総括判断

	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較	総括判断の要点
大阪府	持ち直している	持ち直している		個人消費は持ち直している。生産活動は足踏みの状況にある。雇用情勢は持ち直しつつある。
滋賀県	持ち直している	持ち直している		個人消費は緩やかに回復しつつある。生産活動は回復しつつある。雇用情勢は持ち直しつつある。
京都府	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある		個人消費は緩やかに回復しつつある。生産活動は緩やかに持ち直している。雇用情勢は緩やかに持ち直している。
兵庫県	持ち直している	持ち直している		個人消費は緩やかに回復しつつある。生産活動は緩やかに持ち直している。雇用情勢はテンポが緩やかながらも、持ち直しつつある。
奈良県	持ち直している	持ち直している		個人消費は緩やかに回復しつつある。生産活動は原材料価格高騰の影響がみられるものの、持ち直しつつある。雇用情勢は持ち直しつつある。
和歌山県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している		個人消費は緩やかに持ち直している。生産活動は持ち直している。雇用情勢は持ち直しつつある。